

# 株式会社アグリスリー

※2018年3月現在

代表者名	實川 勝之	資本金	18 百万円
設立年	2011 年 7 月 27 日	売上高	59 百万円 (2016 年 12 月期)
事業内容	生産 (コメ、梨、カボチャ)、 消費者直売、加工・製造、 観光・交流、飲食、作業受託	経営規模	田 23ha、畑 8ha、樹園地 1.6ha、作 業受託 (水稲→一貫受託 10ha)、生 産施設 2,000㎡、加工施設 180㎡ (ソース、菓子など)、直売所 83㎡ (約 35 種類)
従事者数	11 人 (うち女性 5 人。女性内訳：管理職 1 人、一般職 1 人、常勤パート 3 人)		
女性活躍 支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 介護休業、母性健康管理のための措置、育児休業代替要員を確保 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係 (休憩室・屋内・野外トイレ・シャワー)、重労働等の業務改善		



## 経営概況

株式会社アグリスリーは、千葉県山武郡横芝光町にある農業法人。前身は同町で代々農家を営む實川農園。代表取締役の實川勝之氏は先代の次男で、パティシエの仕事に就いていたが、21歳で同農園を継承した。

継承後、實川氏は事業を多角化。梨やカボチャ、コメ、ミニトマトなどの農作物を生産するほか、農産物の加工販売、農作業の作業受託、就農希望者の就農支援等を行っている。事業拡大に伴う雇用制度整備もあり、2011年に株式会社化した。社名には「地域の農業文化を守る」「自然と人を農業で繋ぐ」「農業を憧れの職業にする」という意味が込められている。

2017年度には、實川氏のパティシエ経験を活

かして、農産物の加工場と農園カフェを新設した。

農産物と加工品は、梨のドライフルーツやジャム、フレーバーマスタード、ピューレなど多種類あり、農園カフェでの直販の他、ネットショップでも購入できる。

経営規模は、田23ha、畑8ha、樹園地1.6ha、生産施設2,000㎡、加工場180㎡、直売所(飲食店)83㎡。

人員構成は、役員が代表取締役の實川氏。正社員は管理職2名(女性1名)、一般職6名(女性1名)、常勤パート3名(すべて女性)。

## 1. 経営者の理念・意識改革

同社では、経営の多様化と、そこで働くスタッフの多様性を尊重している。これは、實川氏が異業種交流を通し、多様性を持つことが自社経営に活かせる部分が多くあると感じたことからによる。

生産や加工、営業広報など多岐にわたる業務の中で、女性スタッフに適した業務が多いことを発見。そこで、個人面談や人事評価制度を導入した。採用段階で仕事内容の希望を明確にし、入社後も、個別面談や人事評価をもとに、各人に適した業務へと配属している。人材の適材適所への配置



により、生産性のさらなる向上や、新たなアイデアによる事業発展が期待できると考えている。

## 2. 女性が働きやすい環境の整備

同社は、正社員の平均年齢が28歳（男女計）と若く、若者が就職先に選びやすい環境にある。さらに女性が働きやすい職場づくりや雇用を確保するため、環境整備を進めている。

事務所は清潔感を重視して建設し、遠方からの就職支援のため、社員寮も整備した。

作業場では、清掃を徹底し、清潔な環境としている。設備的には、休憩室や屋内・屋外トイレ、シャワー室などを完備。作業台の高さ調整、軽トラックは女性でも操作がしやすいオートマチック車の導入など、さまざまな方策を講じている。

このような取り組みから、設立当初は人材確保に苦労していたが、現在は多い年で年間100名以上の求人問い合わせがあり、北海道や山形の女性を採用した実績もある。

また、地域の子育て世代の女性を積極的に雇用するため、カフェと加工場では時短勤務やフレックス制度等を導入し、柔軟なシフト管理に対応。将来的には社員登用も視野に入れている。

## 3. 女性のスキルアップ

生産部の観光事業、直売事業、加工部のカフェ、加工場、営業部でのSNS等を使った広報やホームページなどは、女性スタッフを中心に運営している。実務の中心的な役割を果たすのは、實川氏の妻である實川真由美氏。3人の子を持つ女性目線から商品開発等に携わり、率先して食育・ベジフルアドバイザー等の資格を取得するなど、女性のスキルアップの模範的な役割を果たしている。

中でも水稻栽培では、新品種「恋の予感」の作付けをきっかけに、品種名を活かしたPRを検討した結果、女性社員からの発案で独自に「農業女子プロジェクト」を立ち上げることに。女性スタッフ

を中心に「米ぬかのバスボール」といった商品開発や販路開拓等を行い、ブランディングに活用した。

2017年からスタートした加工場や農園カフェは、計画段階から女性活躍の場と位置付けられた。商品やメニューは、いわゆる「インスタ映え」等、女性目線での開発やパッケージデザインを重視し、商品評価が高まった。パッケージ刷新後は取引先が18件増加し、売上も1割増加した。また、商品数が大幅に増えたことで、マルシェや展示会などへ出展しやすくなった。

## 4. カフェを女性たちが情報発信する基地へ

今後は、カフェを地域の魅力や情報発信基地として活用していきたいとのこと。ハイキングの立ち寄りスポットに活用したり、地元特産品のメニューを開発するラボ（研究室）にするなど、構想が広がっている。

今までの実績としては、地元宿泊施設との共催で、農園内での収穫体験を行ったり、ヨガ教室等のイベントを開催し、農家の女性として「食育」や「健康」の情報を伝えている。

また、同町で生まれ、日本で初めてソーセージを作った大木市蔵氏のレシピを横芝光町商工会青年部として再現して町のイベントで提供するなど、地域連携も積極的に推進している。

### 審査委員の声

代表實川勝之氏は家族・従業員のための環境整備などに早くから取り組んできた。地域の良さを活かした多様性のある経営展開をしていて、子供たちが自然の中で継ぎたいと思ってもらえる農業をし、継ぎたいと思える選択肢を広げたいとのこと。妻真由美さんは子供3人も成長したため、本腰を入れて社内女子プロジェクトを立ち上げ取り組んでいる。女性が活躍できる要素が多く、若い経営者夫妻・若いスタッフの今後の活躍が楽しみだ。